

弘法さんかわら版

発行編集部

〒100-0001 東京都千代田区千代田

TEL 057-737-1955

kauhal@oh-kauhal.org

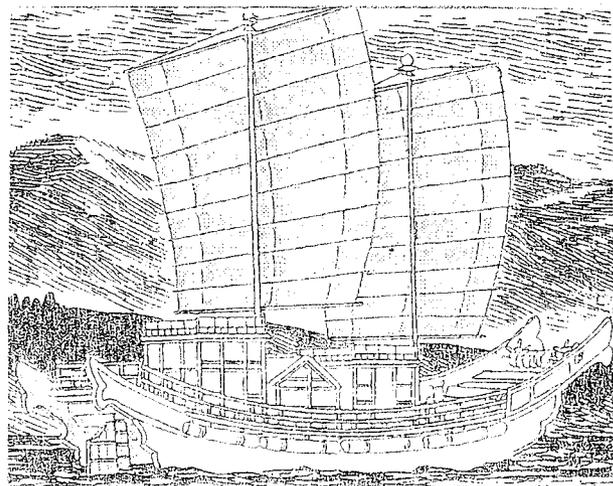
皆さん、こんにちは。もうお彼岸になつてしまいました。早いですね。季節の変わり目ですので、健康にはくれぐれもご留意ください。

★お彼岸は純國産

そのお彼岸ですが、秋分・春分の日をはさんで前後三日間が彼岸の期間になります。十三世紀に渡来した中国の**木村和尚**というお坊さんが、「日本国には春秋に彼岸という風習がある」と記録しています。お彼岸という風習は中国にもインドにもなく、日本固有のもので、**純國産の習慣**が仏教信仰と結びついて現在のかたちになったと言われています。ご存じでしたか。

★苦難の船出から千二百年目

さて、弘法大師がはるばる唐の都・**長安**(現在の**西安**)をめざして海を渡つたのは八〇四年(延暦二十三年)の



ことでした。今年は二〇〇三年ですから、**ちよつと千二百年目**になります。弘法大師は国内で修行を続けていきましたが、**經典**は**インド**の言葉である**サンスクリット語(梵語)**で書かれていたほか、呪文や秘文について分からないうことが多かったため、教義を学ぶために唐に渡ることを決意したのです。弘法大師、三十歳の時でした。

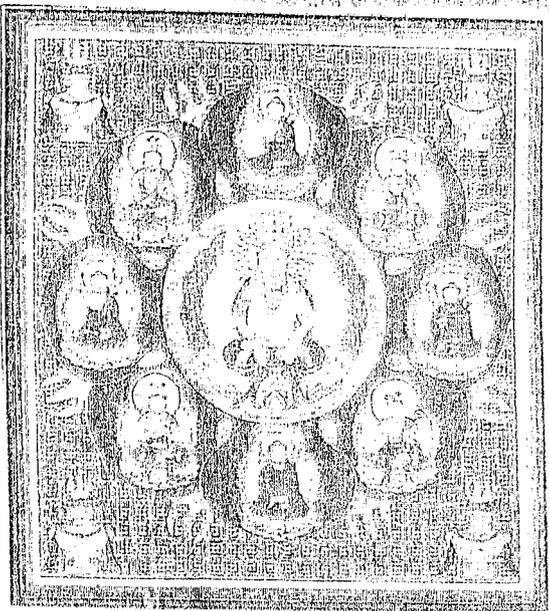


★口伝から始まった仏教の教え

仏教の教えを説くお経は非常にたくさん種類があります。「八万四千の法門」という言い方もあり、正確にいくつのお経があるか分かりません。

お釈迦様（仏陀）はその教えを記録に残しませんでした。全て**口伝**（くでん）です。そこで、お釈迦様が亡くなった（入滅）後、五百人の**阿羅漢**（あらかん）**悟りを得た人**が集まり、教えを記録する作業が始まりました。しかし、お釈迦様は弟子の個性に合わせた教えを説いていたので、実に様々な**経典**が生まれ、以来、多くの内容に発展していったそうです。

弘法大師は、そうした教えの定義（教義）を学ぶために唐に渡りました。



★覚王山霊場の開山は誰？

ところで、ここ覚王山の「日本最小の八十八カ所霊場」は誰が開山したのでしょうか。

記録によれば、明治四十二年、**山下圓教師**、**伊藤萬蔵**、**花木助次郎**、**奥村新兵衛**による勸進帳から始まったそうです。以後、大正初期にかけて八十八カ所が整備されました。

八十八カ所霊場が**AからGの七地区**に分かれていることは、以前にご紹介しました。本堂から東に向かい、**姫が池**（放生池）通りを渡って**C地区**から**D地区**に行く途中に、**開山の祖**、**山下圓教師の墓所**があります。是非一度、お参りしてください。

★「空海と高野山」特別展覧会

弘法大師入唐千二百年を記念して、愛知県美術館にて「**空海と高野山**」特別展覧会が開催されます。国宝二十一点と重要文化財九十六点が一堂に集結します。高野山の宝物の全容を紹介する**初めての機会**です。乞うご期待！

開催期間 十月十日（金）～

十一月二十四日（月）

場所 愛知県美術館（栄の県立芸術文化センター内）

電話 九七一・五五二一